

鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 笑顔あふれる 元気な「かづの」を目指して ～

(平成 28 年 3 月改訂)

鹿 角 市

目 次

I. はじめに

1. 策定の背景	1
2. 総合戦略の位置付け	1

II. 基本的視点と基本目標

1. 基本的視点	2
2. 基本目標	3
3. 推進期間	3

III. 今後の施策の方向

基本目標 1 笑顔あふれる雇用をつくる

(1) 域外市場産業の活性化	4
(2) 地域資源の循環	9
(3) 産業人材の確保	10

基本目標 2 笑顔あふれる人の流れをつくる

(1) 首都圏等からの移住の促進	12
(2) 都市ブランドの確立	15

基本目標 3 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる

(1) 結婚しやすい環境づくり	17
(2) 安心して出産できる環境づくり	17
(3) 子育て支援サービスの充実	18
(4) 子育てに伴う経済的負担の軽減	19

基本目標 4 笑顔あふれる地域をつくる

(1) まちなか賑わい創出	21
(2) 地域コミュニティの活力再生	24
(3) 健康生き生き長寿社会の実現	26

IV. 効果的な推進と検証

1. 推進体制	29
2. 検証	29

I. はじめに

1. 策定の背景

我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題となっている。

このため、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）が制定され、国においては、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること、地域社会を担う個性豊かで多様な人材を確保すること、及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することの一体的な推進（以下「まち・ひと・しごと創生」という。）を図ることとしている。

国は、平成 26 年 12 月 27 日に、人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をそれぞれ閣議決定し、まち・ひと・しごと創生に総合的に取り組むこととしている。

まち・ひと・しごと創生については、国と地方が一体となり、中長期的視点にたって取り組むことが必要であるため、本市では国及び県の総合戦略を勘案しつつ、本市における人口の現状と将来の展望を提示する「鹿角市人口ビジョン」を策定し、これを踏まえて、今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定する。

2. 総合戦略の位置付け

総合戦略は、鹿角市総合計画に包含されるものとして位置付け、第 6 次総合計画後期基本計画（H28～H32）とあわせ策定し、後期基本計画における重点プロジェクト中のまち・ひと・しごと創生に関係する事業で構成するものである。

Ⅱ. 基本的視点と基本目標

1. 基本的視点

総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、「鹿角市人口ビジョン」を踏まえ、本市のまち・ひと・しごと創生に向けた基本目標や施策の基本的な方向、具体的な施策をまとめたものである。

総合戦略の策定にあたっては、鹿角市人口ビジョンを踏まえ、国及び県の総合戦略における視点を勘案し、次の視点に沿った取り組みを進める。

視点 1 人口流出の抑制とU I Jターンの促進

本市で「住みたい」「働きたい」という希望を実現するため、進学や就職のため一度転出した若い世代の「戻りたい」という意識の醸成と「戻ってこられる」環境整備を図り、本市へのU I Jターンを促進する。

視点 2 若い世代の就労と結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現

将来にわたって安定した人口構造の確保を図っていくため、若い世代が安心して働き、希望どおり結婚・妊娠・出産・子育てをすることができる社会経済構造を実現する。

視点 3 地域課題の解決と本市の特徴を生かした地域活性化

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、地域が抱える課題の解決を図るとともに、本市の特徴を生かした地域活性化策を展開し、地域の活力を創造する。

2. 基本目標

基本的視点に沿って、4つの政策分野ごとに基本目標を定め、具体的な取り組みを推進する。

基本目標 1	笑顔あふれる雇用をつくる
基本目標 2	笑顔あふれる人の流れをつくる
基本目標 3	笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる
基本目標 4	笑顔あふれる地域をつくる

3. 推進期間

総合戦略の推進期間は、国の総合戦略との整合性を図るため、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 か年とする。

Ⅲ. 今後の施策の方向

基本目標 1	笑顔あふれる雇用をつくる
--------	--------------

数値目標	基準値	目標値(H31)
雇用創出数	—	累計 290 人増

▶ 基本的方向

本市の魅力を生かした商品やサービスを生み出し、それを域外に移出することで「外貨」を呼び込み、その資金を域内循環させることで地域の所得向上を図るとともに、雇用環境の創出（拡大）を目指す。また、これらの取り組みの実現を目指すため、産業振興を担う人材の確保に取り組む。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（１）域外市場産業の活性化

（ア）競争力の高い産業の育成

① 農業生産物の高付加価値化

○ 農業経営体の強化

競争力ある農業経営体を育成するため、経営サポーターを配置し課題解決に向けた農業経営改善計画の策定を支援するほか、商工会や金融機関と連携した経営サポートチーム（産金連携）により、6次産業化など販売重視型農業への転換を支援する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
経営サポートチームへの相談件数	—	累計 24 件

□ 具体的な事業

- ・ 農業構造改革推進事業
- ・ 農業経営改善支援事業
- ・ アグリビジネス支援事業

○ 複合経営の推進

枝豆やキュウリなどの市場性や採算性の高い農産品の作物づくりを支援するほか、周年園芸に向けた施設整備等を支援し、農業所得の向上を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
主力作物作付面積（6品目）	56.3ha（H26）	70.0ha

※6品目…枝豆・トマト・アスパラガス・キュウリ・新テッポウユリ・ネギ

□ 具体的な事業

- ・ 水田転換主力作物づくり強化事業
- ・ 周年園芸普及拡大対策事業

○ ブランド確立・新ブランド育成

産地化を進めてきた淡雪こまち・そば・北限の桃・かづの牛については、さらなる振興によりブランドの確立を推進するほか、新ブランドとなりえる花き等の栽培実証や販売実証を支援する。また、特別栽培など付加価値の高い農産物の生産を拡大し、ブランド化を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
淡雪こまち1等米比率	83.8%（H26）	90.0%
玄そば品質区分2等級以上	0%（H26）	100%
北限の桃の年間販売額	1.4億円（H26）	1.9億円
かづの牛の飼養頭数	345頭（H26）	591頭
新規作物取り組み経営体数	—	9経営体
こだわり作物栽培実践者	—	80経営体

□ 具体的な事業

- ・ 淡雪こまち振興事業
- ・ そばの里プロジェクト推進事業
- ・ 北限の桃産地拡大推進事業
- ・ かづの牛生産振興対策事業
- ・ 新規ブランド産品育成支援事業
- ・ 鹿角こだわり作物推進事業

② 地元企業の高度化支援

○ 設備投資支援

雇用を伴う工場等の新增設、事業高度化に資する設備投資など、市内で操業する企業や小規模事業者の事業拡大に向けた取り組みを支援し競争力の強化を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
新增設及び事業の高度化件数	—	累計 42 件
小規模事業者応援件数	—	累計 30 件

☐ 具体的な事業

- ・ 企業立地推進事業
- ・ がんばる小規模事業者応援事業

○ 新商品開発・販路拡大支援

企業間のマッチングにより、地域資源を活用した新商品の研究開発や販路拡大を支援する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
新商品研究開発件数	—	累計 25 件

☐ 具体的な事業

- ・ 産業ブランドアップ推進事業（地方創生先行型：地域商品流通支援・販路拡大事業）
- ・ ビジネスチャンス拡大支援事業

③ 観光産業の振興

○ 誘客活動の推進

広域連携による取り組みを推進し、相乗効果による魅力の拡大と多様化を図る。また、タイ等へのセールスや免税店取得支援など外国人観光客の誘客とともに、コンベンションや教育旅行等の団体誘客の促進を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
観光客数	175 万人（H26）	191 万人
宿泊者数	22 万人（H26）	24 万人

外国人宿泊者数	4,000 人 (H26)	7,400 人
---------	---------------	---------

- ☐ 具体的な事業
- ・ 広域観光連携推進事業
 - ・ 外国人観光客誘客推進事業
 - ・ かつのコンベンション開催助成事業
 - ・ 十和田八幡平まなび旅創生事業

○ 効果的な P R

鹿角観光ファン制度に有料会員制を導入し、観光商品や観光施設の割引などのプレミアム感の高い特典を提供する。また、きりたんぼイベントの強化など、訴求力のある効果的な P R に取り組み、誘客の拡大を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
有料ファン会員	—	累計 2,400 人

- ☐ 具体的な事業
- ・ 観光宣伝推進事業
 - ・ きりたんぼ発祥の地かつの P R 事業

○ 魅力の向上

温泉を活用した、観光客と市民がふれあう拠点を整備し、賑わいの創出と魅力の向上を図る。また、大湯環状列石の保存整備と出土品の国指定重要文化財の指定に向けた取り組みを行うほか、世界文化遺産登録を推進する。

さらには、本市観光の中心である八幡平の魅力を全国に発信し、本市全体への波及効果を拡大させる。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
主要観光施設の入込客数	175 千人 (H26)	246 千人

- ☐ 具体的な事業
- ・ 大湯温泉地区観光拠点施設整備事業
 - ・ 大湯環状列石出土遺物整理事業
 - ・ 大湯環状列石魅力アップ事業
 - ・ ふれあいの森八幡平誘客促進事業
 - ・ 観光アクセス充実対策事業

○ 鹿角観光の確立

鹿角観光プラットフォームの体制を強化し、関係機関と連携し受入体制の整備や魅力ある商品造成を進め、本市への誘客を促進する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
観光消費額	8,335 百万円（H26）	8,613 百万円

☐ 具体的な事業

- ・ かづの観光産業確立事業

（イ）新産業の創出

積極的な情報収集と誘致活動により、企業の本市への進出や移転を促進するほか、民間事業者と連携し再生可能エネルギー分野への参入を促進する。また、創業支援事業計画に基づき、商工会や金融機関と連携し女性や若者などの起業者を支援するほか、インキュベーション機能を持たせたレンタルオフィスを整備する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
誘致企業数	—	累計 1 社
起業・創業者数	—	累計 35 件

☐ 具体的な事業

- ・ 企業誘致促進事業
- ・ 地域新エネルギー利活用推進事業
- ・ 起業・創業支援事業
- ・ ウーマンネットワークビジネス支援事業
- ・ まちなかオフィス整備事業

（２）地域資源の循環

（ア）地域内連携の活性化

○ 異業種連携の推進

地域資源の効果的な循環により経済の活性化を図るため、異業種連携の創出や6次産業化を支援する。また、少量多品目のこだわり園芸作物を買い取り、その販売や加工、食事提供を行う農業者組織を立ち上げ、その拠点となる施設を整備する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
アグリビジネス支援件数	—	累計 8 件

☐ 具体的な事業

- ・ 産業ブランドアップ推進事業（再掲）
- ・ アグリビジネス支援事業（再掲）
- ・ （仮称）鹿角マルシェ推進事業

○ 地産地消の推進

地産地消に意欲的な事業所をかづの産食ショップとして認証するほか、鹿角料理の確立に取り組むなど普及啓発を強化する。また、森林資源の循環的な利用を図るため、搬出間伐や再造林を促進する。

さらには、本市の恵まれた自然特性である電力資源を有効活用するため、地域内で産出された電力を地域内で消費する体制を構築する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
かづの産食ショップ認証事業所数	—	累計 90 事業所
新電力設立数	—	累計 1 社

☐ 具体的な事業

- ・ 地産地消推進事業
- ・ 森林環境保全直接支援事業
- ・ （仮称）かづのパワー体制構築事業

(イ) 地域商業の活性化

市内における消費拡大を図るため、地域資源を活用した異業種間連携を推進し、新商品の開発や販促等の取り組みを促進する。また、売り上げの向上等につながる店舗の改修・改装のほか、新規開業を支援し魅力ある商環境の創出を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
ハミングカード・コナンカード ポイント付与数	14,688 千ポイント	14,948 千ポイント

☐ 具体的な事業

- ・ 産業ブランドアップ推進事業（再掲）
- ・ 商店街リノベーション支援事業
- ・ 起業・創業支援事業（再掲）

(3) 産業人材の確保

(ア) 人材の育成

企業の農業参入を支援するとともに、事業者と事業引継ぎを希望する者とのマッチングや新たな事業展開に挑戦する後継者への支援など、事業承継に向けた取り組みを促進する。また、従業員の能力向上につながる研修費用を支援し、企業にとって必要不可欠な人材を育成する。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
新規農業参入企業	—	累計 4 社
産業人材育成支援事業活用者数	—	累計 250 人

☐ 具体的な事業

- ・ 企業農業参入支援事業
- ・ 産業人材育成支援事業
- ・ がんばる小規模事業者応援事業（再掲）

(イ) 就業支援

就農フェアやお試し農業体験により就農希望者を支援するほか、就農コンシェルジュによる研修から営農定着までのサポート体制を構築する。また、就農者同士の交流の場を創出し、就農計画の実現を支援する。

さらには、新規学卒者やU I J ターンなどの新規就業者の支援のほか、キャリアアップのための資格取得支援や待遇改善など、就業環境の向上を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
新規就農者数	—	累計 10 人
A ターン就業者数	—	累計 90 人
資格取得支援事業活用者数	—	累計 150 人

☐ 具体的な事業

- ・ 農業構造改革推進事業（再掲）
- ・ 新規就農者育成支援事業
- ・ 新規学卒者雇用奨励事業
- ・ A ターン就職促進事業
- ・ 就職支援事業
- ・ 資格取得支援事業
- ・ 雇用環境改善事業
- ・ 介護人材確保推進事業

基本目標 2**笑顔あふれる人の流れをつくる**

数値目標	基準値	目標値
転入者数(年間)	648 人 (直近 5 年平均)	700 人 (H31 年)

▶ 基本的方向

移住しやすい環境を整備し、移住に結び付く情報発信やイベントを通じて U I J ターンを促進するとともに、移住予備群となりうる交流人口の拡大を目指す。

他自治体との差別化を図りつつ自立的な活性化を進める観点から、鹿角ならではの独自の価値や誇りを具現化する「鹿角ブランド」を確立し、観光客など交流人口の拡大を図りながら地域経済を活性化し、ひいては人口の流入増、流出減をもたらすことで持続的発展につなげていくことを目指す。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標 (K P I)**(1) 首都圏等からの移住の促進****(ア) 移住の促進****○移住促進体制の整備**

民間団体と市が連携・協力し本市への移住を促進するため、移住・定住サポーターや移住者ネットワークなど市民一体となった体制を構築する。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
移住・定住サポーター登録者数	—	累計 100 人

□ 具体的な事業

- ・ 移住促進体制充実事業（地方創生先行型：移住促進事業）

○ 移住情報の発信

本市の魅力を移住予備群や移住希望者に P R するため、ホームページやメディア

等を活用し情報を発信する。また、鹿角暮らしを提案する移住ガイドブックを作成するほか、首都圏等で移住フェアを開催し本市への移住を推進する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
移住窓口への相談件数	—	累計 370 件

☐ 具体的な事業

- ・ 移住情報発信事業（地方創生先行型：移住促進事業）

○ 移住体験機会の提供

市外在住の方を対象にした「かづの」を体験するツアーを開催し、移住への動機付けを図る。また、お試し住宅を運営し、いつでも鹿角市で暮らすイメージを持ってもらえる体制を整備し、本市への移住を促進する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
お試し移住ツアーの開催回数	—	累計 25 回

☐ 具体的な事業

- ・ 移住体験提供事業（地方創生先行型：移住促進事業）

○ 定住の支援

移住に対する経済的支援を行い、かづの暮らしのスタートを応援する。また、民間事業者と連携し、宅地建物データバンクの充実を図るほか、登録物件に居住する際の必要な改修などを支援する。

移住者ネットワークを構築し、移住者に寄り添いながら、不安の解消に向けたサポートやきめ細かな情報提供を行う。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
データバンク成約件数	—	累計 10 件

☐ 具体的な事業

- ・ 定住促進事業

(イ) 地域間交流の推進

○ 都市農村交流の推進

葛飾区四つ木地区との交流を推進するとともに、農村体験の提供など、本市への交流人口の拡大を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
宿泊を伴った農作業等体験者数	—	累計 125 人

☐ 具体的な事業

- ・ 都市農村交流事業

○ スポーツ交流の推進

花輪スキー場を核とした恵まれたスポーツ環境を活かし、全国規模の大会を積極的に誘致するほか、地域活性化のため新たな市民マラソン大会を創設する。また、スポーツ合宿を行う団体に対し宿泊費を支援し、交流人口の拡大を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
スポーツ合宿奨励補助金利用人数 (年間)	3, 231 人 (H26)	3, 540 人

☐ 具体的な事業

- ・ スキーと駅伝のまちづくり事業
- ・ スポーツ交流事業

○ 大学等との連携

大学等との共同プログラムを検討実施するとともに、県外大学等が行う市内での調査研究活動に対し支援し、若者等と地域住民との交流による地域活性化や高等教育機関の知の活用を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
県外大学等調査研究活動奨励補助金利用人数	—	累計 400 人

☐ 具体的な事業

- ・ 共同研究等推進事業
- ・ 県外大学等調査研究活動支援事業

（２）都市ブランドの確立

（ア）ブランドコンセプトの確立

ブランドコンセプトを確立するため、市民のイメージや価値の認識を共有する場を創出しながら地域で大事にされている多くの魅力を地域ぐるみで編集し、鹿角ならではの独自の価値やふるさとへの誇りを高め、市外の人々が訪れたい魅力的な地域づくりを進める。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
鹿角に愛着を持つ人の割合	—	68%

☐ 具体的な事業

- ・ 鹿角ブランド推進事業

（イ）地域資源の信頼向上

地域資源の再認識や磨き上げを図り、本市ならではの食や体験機会を提供し、消費者への訴求力を高める。

また、ブランド化を目指している淡雪こまちや北限の桃、かづの牛などの量的拡大と質の向上を図るほか、専門家からの助言、指導や商品開発、販路開拓にかかる費用の支援により、新たなブランド製品の育成を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
鹿角市の全国的な魅力度順位	564 位（H26）	320 位

☐ 具体的な事業

- ・ かづの観光産業確立事業（再掲）
- ・ 「森と水の癒し里かづの」森林セラピー活用事業
- ・ きりたんぼ発祥の地かづのPR事業（再掲）
- ・ 地産地消推進事業（再掲）
- ・ 「そばの里」プロジェクト推進事業（再掲）
- ・ 「淡雪こまち」振興事業（再掲）
- ・ 北限の桃産地拡大推進事業（再掲）
- ・ かづの牛生産振興対策事業（再掲）
- ・ 新規ブランド製品育成支援事業（再掲）

(ウ) 魅力の発信

「スキーと駅伝のまち」や「子育てしやすいまち」のイメージを確立し、まだ全国的に知られていない本物の価値を効果的にPRする。

また、市のブランド力を高める市民活動や事業をPR事業に認定し、その取り組みを支援することにより鹿角ブランドの認知度の向上を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
鹿角市の全国的な認知度順位	711 位（H26）	520 位

- ・ 移住情報発信事業（再掲）
- ・ スキーと駅伝のまちづくり事業（再掲）
- ・ スポーツ交流事業（再掲）
- ・ シティプロモーション認定事業

基本目標 3

笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.58 (H24)	1.8 (H31)

▶ 基本的方向

結婚を望む独身男女への出会いの場の提供と結婚に向けた支援を行うほか、保育環境の充実により待機児童ゼロを維持するとともに、出産・子育てに要する経済的な負担を軽減するなど、子どもたちが健やかに生まれ育つことのできる環境づくりを進め、若い世代が結婚・出産・子育てしやすいまちを目指す。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）**（１）結婚しやすい環境づくり**

あきた結婚支援センターの入会登録料の無料化のほか、結婚サポーターの活動を支援するなどマッチング機能を強化するとともに、市民団体等が行う出会いイベントの開催を支援し、結婚を望む独身男女への出会いの場の提供を充実させる。

また、結婚・子育て支援ローンの創設とその返済の助成を行い、若者の経済的不安を軽減する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
出会いイベント提供数	—	累計 40 件

☐ 具体的な事業

- ・ 出会い応援事業
- ・ 子ども・若者未来応援事業

（２）安心して出産できる環境づくり

地域の産婦人科医の確保を図るとともに、妊娠初期から産後までの定期的な健康診査等により、母子ともに健全な状態で妊娠・出産できる環境をつくる。

また、不妊・不育治療への助成を行うほか、子育て支援ローンの創設とその返済

の助成により、出産時の経済的負担を軽減するとともに、第1子の誕生に対しお祝い金を支給する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
市内の産婦人科医師数	3人（H26）	3人

☐ 具体的な事業

- ・ 医師確保対策事業（地域中核病院支援）
- ・ 母子保健指導事業（地方創生先行型：子育て家庭世帯応援事業）
- ・ 不妊・不育治療支援事業
- ・ 子ども・若者未来応援事業（再掲）

（3）子育て支援サービスの充実

○ 母子の健康づくり支援

乳児がいる家庭を訪問し育児に関する情報提供と相談を行うほか、子どもの虫歯予防のため、フッ化物塗布の機会を拡大する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
むし歯の無い3歳児の割合	69.6%（H26）	78.3%

☐ 具体的な事業

- ・ 母子保健指導事業
- ・ むし歯予防大作戦

○ 子どもの預かり支援

開所時間の延長のほか、対象年齢の拡大や障がい児の受け入れなど、放課後児童クラブの拡充を図る。また、ファミリーサポートセンター事業を推進し、安心して子どもを預けられる環境づくりを図り、共働き家庭の子育てを支援する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
放課後児童クラブの待機児童数	1人（H26）	0人

☐ 具体的な事業

- ・ 放課後児童健全育成事業
- ・ 放課後児童クラブ障がい児受け入れ推進事業
- ・ ファミリーサポートセンター事業

○ 保育体制の充実

途中入園による待機児童の未然防止や、障がい児等の保育など多様化する保育需要に対応するため、民間事業所が行う保育士の加配にかかる費用を助成する。

また、病気の治療中・回復期にあつて集団保育が困難な期間に一時的にその児童を保育し、子育てと就労の両立を支援する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
保育園の待機児童数	0 人（H26）	0 人

☐ 具体的な事業

- ・ 途中入園対策事業
- ・ 病児・病後児保育事業

○ 小児医療等の確保

安心して子育てができる環境を提供するため、小児科医や産婦人科医の確保を図り小児医療体制を維持する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
小児・産婦人科医師数	6 人（H26）	6 人

☐ 具体的な事業

- ・ 医師確保対策事業（地域中核病院支援）（再掲）
- ・ あんしん医療連携事業

（４）子育てに伴う経済的負担の軽減

○ 保育料の軽減

子育てに係る経済的な負担を軽減するため、保育料を国基準額よりおおむね３割軽減するほか、保育料助成の拡充を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
保育料軽減率（全体）	29.0％（H26）	30.0％

☐ 具体的な事業

- ・ 保育料軽減事業
- ・ すこやか子育て支援事業

○ 第3子以降の子育てにかかる費用の軽減

多子世帯への経済的支援を図るため、第3子以降の保育園の保育料、ファミリー・サポート・センターや放課後児童クラブの利用料を無料化するほか、小学校から高校までの教育費用を支援する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
出生数に占める第3子以降の割合	22.7%（H26）	27.7%

☐ 具体的な事業

- ・ すこやか子育て支援事業（再掲）
- ・ ファミリー・サポート・センター事業（再掲）
- ・ 放課後児童健全育成事業（再掲）
- ・ 教育費支援事業

○ 医療費の助成

産後1か月検診の費用を助成するほか、18歳までの子どもの医療費に係る負担を軽減するため、福祉医療制度やインフルエンザ予防接種助成の拡充を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
子育て支援の満足度	46.2%（H26）	55.0%

☐ 具体的な事業

- ・ 母子保健指導事業（再掲）
- ・ 福祉医療給付事業（地方創生先行型：子育て家庭世帯応援事業）
- ・ 感染症予防事業（小児インフルエンザ）

基本目標 4**笑顔あふれる地域をつくる**

数値目標	基準値	目標値
住みごこちの満足度	54.7% (H26)	60.0% (H31)

▶ 基本的方向

人口減少が進行しつつも持続性ある地域社会の形成を図るため、中心市街地の魅力や快適性・利便性、交通アクセスを向上させることにより賑わいを創出し、本市における拠点性の維持を目指す。

また、地域住民が主体性を持ち、地域課題の解決に向けた活動に取り組めるよう支援体制をさらに強化するとともに、地域活動に積極的に取り組む人材の確保と育成を進め、自治会をはじめとする地域コミュニティの活性化を目指す。

さらには、健康ではつらつとしたシニアライフを楽しむことができ、また、何らかの支援が必要になった場合でも、住み慣れた地域で自立した生活ができる社会の実現を目指す。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）**（１）まちなか賑わい創出****（ア）中心市街地の魅力の向上****○ 商業機能等の集積**

商店街の魅力の向上を図るため、商店街への移転立地や起業創業を促進する。また、店舗の魅力度を高める改修等を支援するほか、空き店舗物件の利活用を図る取り組みを進める。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
商店街空き店舗数	35 店舗（H26）	25 店舗

□ 具体的な事業

- ・ 商店街リノベーション支援事業（地方創生先行型：商店街活性化支援事業）
- ・ 起業・創業支援事業（再掲）

- ・ まちなかオフィス整備事業（再掲）

○ 多彩なイベント

賑わいの創出のため商店街のイベント開催を支援するほか、コモッセイベントのチケット販売に対し商店街のポイントを付与するなど連携を図る。また、まち並みや景観を生かしたまち歩き観光を推進する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
がんばる商店街応援事業イベント参加者数	11,700 人	12,200 人

☐ 具体的な事業

- ・ がんばる商店街応援事業（地方創生先行型：商店街活性化支援事業）
- ・ 文化の杜交流館事業
- ・ かづの観光産業確立事業（再掲）

○ 地域資源の保存・創出

旧鹿角郡公会堂を保存修理し、民俗資料館として活用するとともに、まち歩き観光の拠点として整備する。また、文化財の調査と記録保存を進めるほか、花輪ばやし屋台の修理を支援する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
民俗資料館入館者数（年間）	200 人（直近 3 年平均）	1,000 人

☐ 具体的な事業

- ・ 旧鹿角郡公会堂整備事業
- ・ 文化財活用伝承事業

（イ）中心市街地における快適性や利便性の向上

○ 社会基盤の整備

中心市街地内の円滑で適正な交通環境を確保するため、市道八正寺久保田線や都市計画街路の整備を進める。

また、市の玄関口である鹿角花輪駅前の交通結節点の機能向上を図るほか、観光案内所やバス待合所などの社会基盤を整備するとともに、コモッセや商店街との連携強化を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
中心市街地の環境に満足している市民の割合	53.5%（4年平均）	58.5%

☐ 具体的な事業

- ・ 道路整備事業（八正寺久保田線ほか）
- ・ 都市計画街路整備事業（横丁工区）
- ・ 鹿角花輪駅前整備事業

○ まちなか居住の推進

空き家の適正な除却により中心市街地の景観を維持するほか、活用可能な空き家の情報提供や改修支援等により、中心市街地の居住人口の増加を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
中心市街地歩行者数（1日平均）	4,307人（H26）	4,700人

☐ 具体的な事業

- ・ 空き家適正管理推進事業
- ・ 定住促進事業（再掲）
- ・ まちなか住み替え支援事業

（ウ）中心市街地のアクセス向上

循環バスを運行し中心市街地内の回遊性を高めるほか、必要なバス路線を確保し利便性の向上を図る。また、予約型乗合交通や定額定期券を導入するほか、在宅で生活する高齢者の移動を支援し、周辺部からのアクセス向上を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
たんぽこまち号の利用人数（年間）	14,950人（H26）	15,714人
数年間公共交通を利用したことが無い人の割合	58.8%（H26）	51.3%

☐ 具体的な事業

- ・ 地域公共交通維持確保対策事業
- ・ 高齢者日常生活支援事業（高齢者福祉タクシー券）

(2) 地域コミュニティの活力再生

(ア) 地域人材の確保

○ 人材育成プログラム

地域社会を支える「人財」を育成する仕組みを構築し、地域の活性化や課題解決を図り、賑わいの創出に取り組む。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
人材育成塾延べ塾生数	—	45 人

☐ 具体的な事業

- ・ みらい輝く人材育成事業
- ・ 自治会コミュニティ活性化支援事業（再掲）

○ 外部人材の活用

人材不足による地域活動の停滞を解消するため、外部人材の活用により地域コミュニティの活力の維持、再生を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
外部人材活用自治会数	—	累計 12 自治会

☐ 具体的な事業

- ・ 集落支援員配置事業（再掲）
- ・ 自治会コミュニティ再生応援事業（再掲）

(イ) コミュニティ支援体制の強化

○ 地域づくり協議会の強化

各地域の自治会などの自治組織との関わりを深め、より地域に根ざした活動に取り組めるよう、地域づくり協議会の強化を図る。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
地域づくり協議会事業の参加者数	37,664 人 (H26)	39,600 人

☐ 具体的な事業

- ・ 地域づくり協議会体制強化支援事業

○ 集落支援員の配置

地域の実情に応じた対策を講ずるため、集落支援員を配置し、自治会の維持活性化に向けた取り組みを支援する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
集落支援員支援自治会数	—	累計 12 自治会

- ☐ 具体的な事業
 - ・ 集落支援員配置事業

○ 活動費等への支援

基礎的な活動や交流活動のほか、コミュニティの活力再生など、自治会活動の維持・活性化を図る取り組みを促進する。また、地域一体となった保全管理活動を支援し、地域の農地の保全と環境整備を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
社会活動や地域活動に参加した市民の割合	70.5%（H26）	74.0%

- ☐ 具体的な事業
 - ・ 自治会振興交付金交付事業
 - ・ 自治会コミュニティ活性化支援事業
 - ・ 自治会コミュニティ再生応援事業
 - ・ 中山間地域等直接支払交付金事業
 - ・ 多面的機能支払交付金事業

○ 活動拠点の整備

地域の拠点となる自治会館の建設や改修を支援するとともに、市民活動の拠点である市民センターの改築を進め、地域活動の活性化を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
自治会コミュニティ活性化支援件数	—	累計 25 件

- ☐ 具体的な事業
 - ・ 自治会コミュニティ活性化支援事業（再掲）
 - ・ 八幡平市民センター改築事業

(3) 健康生き生き長寿社会の実現

(ア) 豊かなシニアライフの促進

○ 健康づくりの推進

生涯にわたって健康で暮らせるよう、健康増進に関する市民への普及啓発や運動を取り入れた健康づくりを行うとともに、疾病予防や早期発見につながる取り組みを進める。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
要介護・要支援認定率	18.0% (H26)	17.9%

☐ 具体的な事業

- ・ かづのでわくわく健康づくり推進事業
- ・ 脳血管疾患対策事業
- ・ 国保健康づくり推進事業
- ・ 生涯スポーツ推進事業
- ・ 感染症予防事業（高齢者インフルエンザ、肺炎球菌予防接種）

○ 介護予防の推進

高齢者が住み慣れた地域で自立した日常生活を送れるよう、介護予防への理解と取り組みを推進するとともに、自治会やボランティアなど地域でその取り組みを支える環境づくりを進める。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
地域生き生きサロン参加者数（年間）	1,792 人 (H26)	5,792 人

☐ 具体的な事業

- ・ 一般介護予防事業

(イ) 高齢者の安心を支える福祉サービスの充実

○ 高齢者の見守り支援

高齢者を地域全体で見守り支える体制を構築し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる仕組みをつくる。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (H31)
見守りネットワーク協定事業所数	59 事業所 (H26)	68 事業所

- ☐ 具体的な事業
 - ・ 高齢者あんしん確保事業

○ 日常生活の援助

日常生活に不安のある方に対して、軽作業や除雪等の生活支援サービスを提供するほか、サービスの提供体制の構築とコーディネートを行うとともに、ボランティアの育成などの取り組みを強化する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
軽度生活援助サービス提供時間	4,543 時間（H26）	4,924 時間

- ☐ 具体的な事業
 - ・ 高齢者日常生活支援事業
 - ・ 生活支援体制整備事業

○ 家族介護への支援

在宅で介護している方の経済的、精神的負担の軽減のため、介護用品クーポンの支給のほか相談会や交流の場を提供する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
相談会、交流会延べ参加数	—	80 人

- ☐ 具体的な事業
 - ・ 家族介護者等支援事業
 - ・ 生活支援体制整備事業（再掲）

○ 認知症への総合対策

認知症サポーターの拡大や身近な相談窓口など、認知症高齢者を支える地域をつくとともに、認知症高齢者を支える体制を構築する。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
認知症サポーター1人に対する高齢者数	5.3 人（H26）	3.4 人

- ☐ 具体的な事業
 - ・ 認知症総合支援事業

○ 介護関係施設整備

高齢者の状況に応じた介護サービスを提供するため、民間の施設整備を支援し環境整備の充実を図る。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
整備施設数	—	累計 2 施設

☐ 具体的な事業

- ・ 介護関係施設等整備事業（小規模多機能型居宅介護事業所、地域密着型特別養護老人ホーム）

IV 効果的な推進と検証

1. 推進体制

総合戦略は、市の最上位の計画である総合計画に包含されるものであり、総合計画後期基本計画に掲げる重点プロジェクト中の取り組みで構成されるものである。

総合計画の策定段階では、各部門ごとの審議会等を通じて、広く市民、関係団体の意見を踏まえて策定しており、策定した戦略を推進するにあたっては、これら市民、関係団体と連携して、地域の総力を挙げて取り組むこととする。

2. 検証

総合戦略の検証は、総合計画の効果的な推進を図るために実施している鹿角市行政評価制度に基づく政策評価の中で行うこととし、評価の客観性を確保するため、政策研究所の政策アドバイザーから総括的に助言を受ける。

検証にあたっては、重要業績評価指標（KPI）や基本目標の推移を踏まえ、取り組みの効果を検証し、次年度以降の進め方の見直しを行い、必要に応じて総合戦略の改訂を行う。

なお、検証結果については、市民に分かりやすく公表する。

